

加工・業務用キャベツの現状と タキイキャベツの品種育成



↑加工・業務用に出荷されていく「彩音」。球内色がよく糖度も高いため、加工向けの定番品種となっている。

現在、日本で生産される野菜の56%が加工・業務用に利用されており、食の外外部化が進んでいるため、今後も加工・業務用野菜の需要がさらに高まることが予想されます。キャベツも例外ではなく、約50%が加工・業務の用途で利用されています。「加工」は芯抜きのような一次加工品からカットやみじん切りなどを指し、冷凍食品や外食、中食で利用され、「業務」はキャベツそのものを外食や中食で利用する形態を指します。近年、省力のため外食や中食産業でも加工品の利用の割合が増加しています。



タキイ茨城研究農場
さとう まさし
佐藤 雅史

キャベツの安定生産

加工・業務用野菜には定時・定量・定価・定質での出荷が求められます。緯度や標高の変化が豊かで、海に囲まれた日本では、産地リレーによる周年安定生産が可能です。産地別に作型を分類すると、冷涼地（高冷地、東北、北海道）が初夏～秋どり（6～10月どり）、中間地から暖地（太平洋沿岸地域、西南暖地）が秋～初夏どり（11月～6月どり）の生産が行われています。

品種には栽培環境適応性、在圃性、耐病性による安定供給を可能にする特性が求められます。また、キャベツ産地では、長年同じ圃場で栽培されることが多く、黒腐病やパーティシリウム萎凋病、菌核病などが問題となり、これらへの対応が重要となっています。

キャベツに求められる特性

加工・業務では主にカットや加熱調理に利用されるために、一般的には「大玉」「芯の短さ」「低水分含量」「葉質」「球内色」が重要な特性としてあげられます。

取り扱うキャベツの個数が作業効率に影響するため、1玉当たりの重量が大きいほど有利になり、大玉であることが求められます。また、カット加工

の際にも長い繊維がとれ、製品のボリュームを高めま。

歩どまり（原料と製品の重量割合）は、芯が短く小さいものが適し、作業性も向上します。品質は水分含量の低さが重要となり、多いとカット後の萎れが顕著になり、加熱調理ではドリップの原因になるため適しません。また、葉質がかたい方が萎れにくく、カット時にボリューム感が出しやすくなります。葉は厚すぎると切断面が目立つので適しません。

球内色の黄色味が濃い品種は外側の緑とのコントラストが強くなり、カット時の見ばえが鮮やかになります。

作型別タキイ推奨品種

冷涼地

・初夏どり

生育期間が低温期にあたることから、球形が甲高になりやすく、球芯が長くなる傾向があります。6月中旬～7月中旬どりでは熟期が早く低温期でも球形の安定した「YR春空」、7月～8月中旬どりでは耐裂球で大玉収穫可能な「YR天空」が適しています。

・夏秋どり

収穫が高温期のため、生育が進みやすく、裂球や球腐敗が問題になります。また、ゲリラ豪雨で傷つくと黒腐病の

発生が助長されます。

耐倒伏、黒腐病耐病性の密植多収シリーズ「TCA-497」「TCA-490」が育成中です。「TCA-497」は7月下旬～9月どり、「TCA-490」は8月中旬～10月中旬どりが適期です。2品種とも倒伏しにくいいため、玉尻から腐敗の発生も少なくなります。

中間地～暖地

・秋どり

生育期が高温、乾燥条件になり、石灰欠乏症や腐敗、裂球が問題になりやすい作型です。10月中旬～11月中旬では、耐暑性と早熟性にすぐれ、耐生理障害に安定的で裂球が遅く大玉収穫が可能な「おきな」の栽培が適します。

・年内どり

収穫期は適期栽培で比較的栽培しやすいため、特に収量性や在圃性にすぐれた品種を選択します。しかし、台風や秋の長雨の影響を受けた場合には、黒腐病の病害が問題となるので、収量性と在圃性にすぐれ黒腐病に強い育成品種「T-532」や、生理障害や黒腐病に強く耐寒性をもつ「あさしお」が11月中旬～1月上旬に適します。

・冬どり

生育期間の長い作型になるため、気温が熟期を大きく左右します。暖冬の年には熟期が前進し、低温条件の年に



は球肥大が劣り、収穫期が3月に集中して計画的な出荷が難しい作型です。また温度が上昇し始めると菌核病が問題になります。12月中旬～2月上旬どり作型では、肥大と結球が安定し、耐病性、そろい性にすぐれた「TCA-422」が展開中です。厳寒期の1月～3月中旬どり作型では、肥大性と在圃性にすぐれる「彩音」が適します。これら2品種は球内色がよく糖度も高いため、加工向けの定番品種になっています。

・早春どり

寒玉系キャベツの端境期となる作型で、花芽分化による抽苔と裂球、腐敗などが問題になります。2月下旬～4月中旬どりでは耐裂球と晩抽性をもつ「夢ごろも」が適します。

・春どり

やはり寒玉系キャベツの端境期となる作型で早熟性がポイントになります。4月中旬～5月中旬では早熟性と球形状のすぐれた「YR春空」が適しています。5月中旬～6月上旬どりでは早熟でしかも寒玉の肉質をもち、耐裂球性にもすぐれる「TCA-489」が試作展開中です。

・初夏どり

上昇気温・高温下の栽培となるため、耐裂球や耐腐敗、上昇気温の適応性が必要になります。5月下旬～6月中旬どりでは、耐裂球性がすぐれ、上昇気温適性の高い「YR天空」、6月どりでは耐裂球性と早熟性をもち、耐暑性にもすぐれる「おきな」が適します。

今後の育成課題

近年、夏ではゲリラ豪雨や猛暑、冬では短期間での激しい気温変化など、栽培が難しい気候になってきています。また、連作による病害の発生も増加してきています。こうした厳しい栽培条件下でも安定生産できる栽培安定性と耐病性を追求し、同時に、用途に応じた最適出荷サイズまで肥大し、安定的に多収可能な品種を目指して育成を行っていきます。

加工・業務用野菜の増加



周年生産のリレーイメージ



加工・業務向きキャベツ作型表

地域	品種名	肥大性	在圃性	耐黒腐病	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
					冷涼地	YR春空	△	△	△	■	■						
	YR天空	◎	◎	△		■	■										
	TCA-497	◎	◎	◎			■	■	■								
	TCA-490	◎	○	◎			■	■	■	■							
中間・暖地	おきな	◎	◎	△	■					■	■						
	T-532	◎	◎	○							■	■					
	あさしお	○	○	◎								■	■				
	TCA-422	◎	○	○								■	■	■			
	彩音	◎	◎	○								■	■	■	■		
	夢ごろも	◎	◎	◎								■	■	■	■	■	
	YR春空	△	△	△												■	■
	TCA-489	◎	○	○	■												■
	YR天空	◎	○	△	■												■

※記事で紹介している「TCA-497」「TCA-490」「T-532」「TCA-422」「TCA-489」の育成品種は現在試作展開中の品種につき、通販や一般販売はしていません。ご了承ください。(編集部)